

記者発表資料 3枚

令和2年 5月29日
福島県いわき建設事務所

夏井川堤防技術検討会の結果について

昨年の東日本台風に伴う大雨により甚大な被害が発生した夏井川において、被災要因を反映した堤防構造の検討・提案を行うため、学識経験者等で構成された「夏井川堤防技術検討会」を開催し、被災要因・復旧構造について承認を得ました。

【夏井川堤防技術検討会の概要】

日時：令和2年5月27日（水）13：15～15：00

場所：オンライン会議（主会場：いわき建設事務所内会議室）

委員：長林 久夫（日本大学工学部 名誉教授）

田中 仁（東北大学大学院工学研究所 教授）

菊地 卓郎（福島工業高等専門学校 准教授）

高橋 長幸（国土交通省東北地方整備局 地域河川調整官）

〈被災要因〉

東日本台風に伴う豪雨により、河川水位が上昇し堤防を越えたことで、民地側の法尻の洗掘が進行し破堤に至った。

〈復旧構造〉

破堤部の堤防について、堤防の上や民地側もブロック等で被覆し、越水に強い構造とする。

夏井川堤防技術検討会



大念仏施工状況



【問い合わせ先】 福島県いわき建設事務所
(担当者) 主幹兼事業部長 伏見 聡
電話 0246-24-6103
FAX 0246-24-6058

夏井川堤防技術検討会結果について

いわき建設事務所

1. 被災原因のメカニズム

地質調査、土質調査、現地調査等を基に被災原因のメカニズムを検討した結果、当該箇所では堤防が破堤した原因は、『観測開始以降、既往最大の雨量が流域に降ったことにより越流が発生し、裏法が洗掘され破堤に至った』と考えられる。

なお、侵食・浸透・越流に対する検討結果概要を、表 1 に示す。

表 1 侵食・浸透・越流に対する検討結果概要

項目	侵食に対する照査	浸透に対する照査	越流に対する照査
判定	侵食による被災の可能性は低い	浸透による被災の可能性は低い	越流による被災の可能性あり
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防表法面・法尻の直接侵食 河川の流水が直接作用する外力と堤防の植生を含む耐力を比較検討した結果、堤防の安全性を満足している。 ・側方侵食・洗堀 現地調査した結果、顕著な側方侵食は確認されない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべり破壊 洪水時および水位低下時における堤防内部の水位変化による堤防の安全性を検討した結果、現況堤防の安定性は確保している。 ・パイピング破壊 地質調査結果から砂等の浸透層を確認し浸透水の流れを解析した結果、安全性を満足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落堀（侵食による窪地） 法尻部に確認された。 ・川裏法面の侵食 付近に侵食跡を確認。 ・植生の倒伏方向 堤内側へ倒れていた痕跡あり。 ・洪水痕跡 天端付近に洪水痕跡あり。



<総合判断>

『観測開始以降、既往最大の雨量が流域に降ったことにより越流し、裏法が洗掘され破堤に至った』

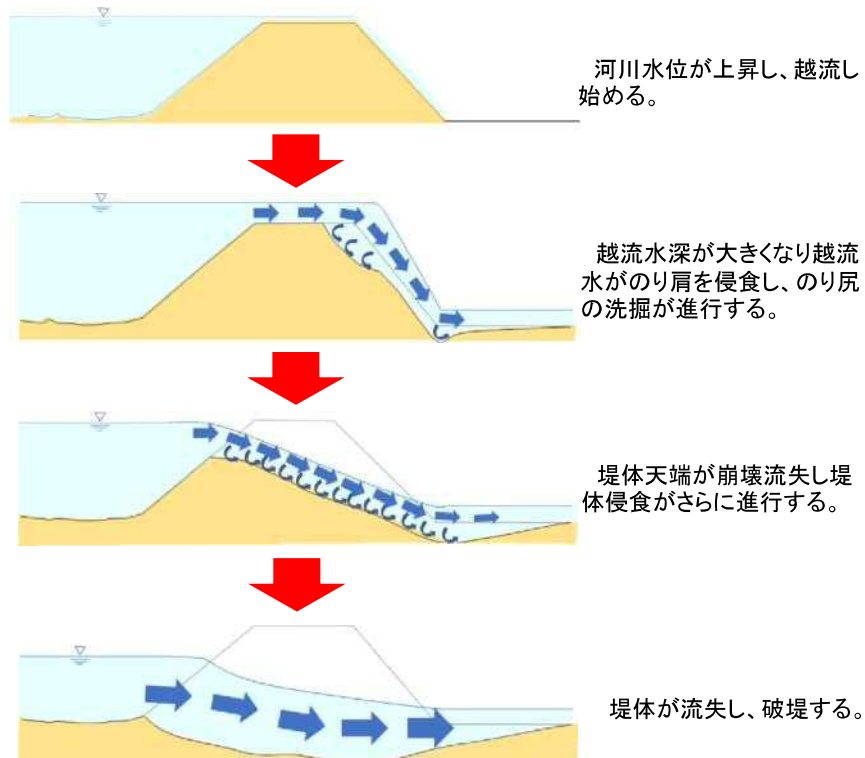


図 1 被災原因（越流による決壊）

2. 復旧方針選定について

復旧工法については、被災水位や河道形状から、図 2 より選定する。

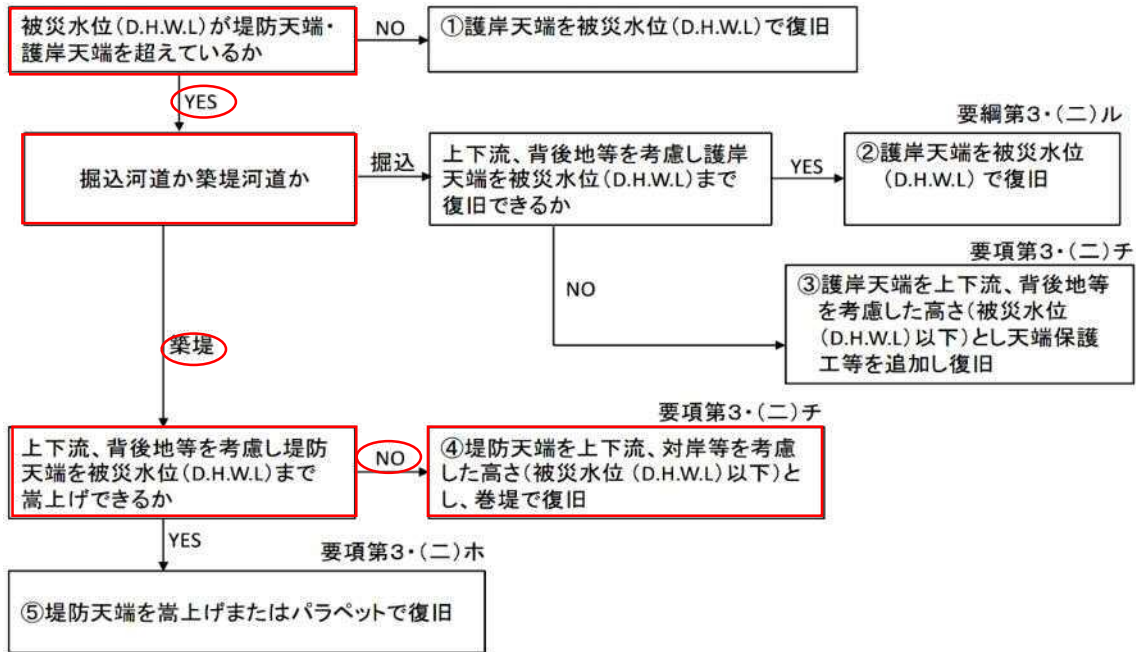


図 2 復旧工法の選定フロー図

3. 復旧構造（破堤箇所）について

復旧構造については、上記工法選定結果及び、本堤防技術検討会の結果を踏まえ、図 3 に示す構造とする。

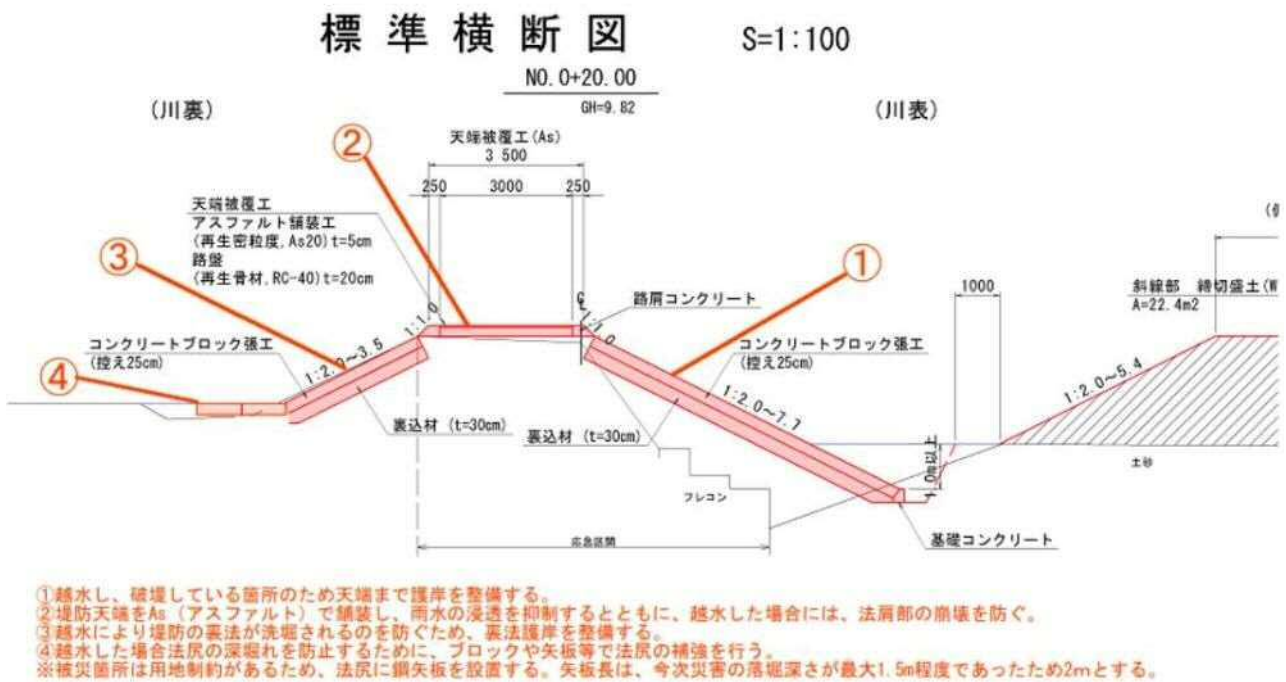


図 3 復旧構造